

1. 来館サービス

入館関係の総収入（入館料、コピー料、撮影料、索引プリント料）は3139万円で、前年比468万円の減収となった。今年度も入館者数、コピー枚数が減少し、モノクロコピーの約7万枚（313万円）減が、大きなマイナス要因となっている。

一般入館者以外では、65歳以上のシニア入館者の利用は271人だった。

(以下、金額は税抜)

	当 期	前 期	増 減	
入館関係総収入	3139万円	3607万円	△468万円	△13.0%
入館者数	10,055人	12,191人	△2,136人	△17.5%
一般入館者数	6,551人	7,851人	△1,300人	△16.6%
入館料収入	406万円	453万円	△47万円	△10.5%
入館コピー枚数	330,506枚	408,186枚	△77,680枚	△19.0%
モノクロ枚数	290,705枚	361,573枚	△70,868枚	△19.6%
カラー枚数	39,801枚	46,613枚	△6,812枚	△14.6%
入館コピー収入	2655万円	3042万円	△387万円	△12.7%
モノクロ収入	2143万円	2456万円	△313万円	△12.7%
カラー収入	512万円	586万円	△74万円	△12.6%

〔利用冊数〕入館利用では約30万冊（6万1000冊減）。他の業務も含めた総出庫冊数は、約37万4000冊で前年より7万5000冊減少した。

2. FAXサービス〈オンライン受付を含む〉

FAXサービス全体の収入は7308万円で、989万円の減収。オンライン受付FAXは62万円の増収だったが、主要な収入源である一般FAXは1051万円の減収となった。総利用者数は1万5701人で約1,700人減少した。オンライン受付の利用も132人減少したが、送信枚数は約7万9000枚で、前年より2,000枚増加している。

	当 期	前 期	増 減	
FAX総収入	7308万円	8297万円	△989万円	△11.9%
一般FAX収入	5131万円	6182万円	△1051万円	△17.0%
オンライン受付収入	2177万円	2115万円	62万円	2.9%
FAX利用者数	15,701人	17,425人	△1,724人	△9.9%
FAX送信枚数	241,967枚	274,638枚	△32,671枚	△11.9%

3. Web 検索サービス

Web 基本料と索引表示料金の合計額は 6610 万円となり、前年比 122 万円の減収だった。課金対象の索引表示件数は、主な利用者である法人会員が約 7 万件（6%）の減少となった。

Web 契約数は、国外教育機関版 15、公立図書館版 24 が前年と同数。法人会員版は 55（契約終了 3、新規契約 5）で前年比 2 増、個人会員版 66（契約終了 12、新規契約 4）は 8 減、教育機関版は 1 減となった。

10 月より法人会員の利用促進のため、ID を 1 契約につき 4 個追加提供し、同じ部署で最大 5 人が同時検索できるサービスを開始した。

	当 期	前 期	増 減	
Web 収入	6610 万円	6732 万円	△122 万円	△1.8%
Web 表示件数	1,152,407 件	1,225,541 件	△73,134 件	△6.0%
法人表示件数	1,087,425 件	1,156,635 件	△69,210 件	△6.0%
個人表示件数	64,982 件	68,906 件	△3,924 件	△5.7%
Web 総利用者数	47,663 人	48,341 人	△678 人	△1.4%

〈Web 契約数 3月末現在〉

	当 期	前 期	増 減
法人会員版	55 部署	53 部署	2
個人会員版	66 人	74 人	△8
教育機関版	113 機関	114 機関	△1
国外教育機関版	15 機関	15 機関	0
公立図書館版	24 館	24 館	0
合 計	273	280	△7

4. 配送サービス

遠隔地の方などにコピー資料を送付するサービス。84 万円の収入で、12 万円の減収となった。利用者は 293 人で 23 人減、配送枚数は約 1 万枚で 3000 枚の減少であった。

5. 索引作成業務

雑誌 253 誌、3,773 冊の記事索引を作成した。索引冊数は前年比で 267 冊増、索引件数は 11 万 7710 件で、5,540 件増加した。新たに職員 2 名を索引業務も出来るようにしたことで、索引増産の効果が出てきている。また有効な検索結果を得られるよう、新たに 1,268 名の人名項目、395 の件名キーワードを作成した。

6. 「雑誌記事人物索引」 目録の第2弾刊行

「雑誌記事人物索引」の2017年版と13年版、12年版を、2018年11月から日外アソシエーツのオンデマンド出版方式で刊行した=写真=。1月に刊行した2016年、15年、14年版に続く第2弾。大宅壮一文庫は、情報提供料として販売価格の35%を受け取る。

A4判・上製本で価格は下記の通り。

▽2017年版=上下2冊セット。セット価格96,000円(税別)。

▽2013年版・12年版=上中下の3冊セット。セット価格126,000円(税別)。

13年版と12年版は、索引件数が多いため、2分冊で収まらず、3冊セットとなった。3月末の販売実績は、43セットと出足がやや鈍い状況になっている。

なお第1弾の16、15年、14年版は、売れ行き好調で計164セットを販売(3月末現在)、情報提供料は573万円(税別)となっている。



7. 利便性拡大に複数ID提供サービス



Web OYA-bunko の利便性の拡大を目的に、法人の契約部署を対象として、ID・パスワード(PW)を最大5個まで提供するサービスを、2018年10月から開始した。この措置で、5人までがデータベースに同時アクセスでき、自宅や取材先でもスマホなどの携帯端末で索引検索=写真=ができるようになった。

この結果3月末現在で、契約法人55部署に対して、登録ID数は228、実際利用されたのは81IDだった。

8. クレジット利用サービス

来館者からの要望が多かった「クレジットカード支払い」が、7月から利用開始となった。利用できるカードは、VISA、JCB、AMEX など7種類。管理会社は、スルガ銀行子会社のスルガカードで、手数料は3~4%。

2018年7月から19年3月までの9か月間の来館総売上は2548万円で、うち現金支払いは2276万円、クレジット売上は10.68%の272万円だった。管理手数料の支払いは7万6000円。

9. 収蔵雑誌リスト作成

文庫が収蔵する 1 万 2667 誌の雑誌名を冊子としてまとめた＝写真＝。内訳は、現在出版されている継続雑誌 788 誌、休廃刊となった非継続雑誌 1 万 1879 誌。全ての収蔵雑誌名が一覧で閲覧できるようになったのは初めて。

現在この収蔵雑誌台帳の電子データ化に取り組んでいる。入力終了した継続雑誌目録データについては、5 月 20 日より文庫ホームページからアクセスできる「情報館」OPAC サービスで公開スタートした。非継続雑誌は、2020 年度内終了を目標に、入力作業を進める。



10. マスコミ取材

▽7 月 13 日＝「死ぬまでに一度は訪ねたい東京の文学館」（増山かおり著、エクスナレッジ社）掲載のため来館。

▽9 月 15 日＝東京新聞人気企画・「東京どんぶらこ」の蘆花恒春園に、大宅壮一文庫のイラストと紹介記事が掲載された。

▽10 月＝「図書館さんぽ」（駒草出版）に掲載のため来館。

▽1 月 19 日＝TBS の「日本一網打尽リサーチ」番組に大宅文庫が登場。70 歳以上で子宝に恵まれた夫婦を探すため、「日本最大のリサーチ場所」（キャプション）大宅文庫で、雑誌 AERA を調べて手がかりを発見、富山に向かうという内容。

11. 校外学習での来館

大学教員が校外学習のため、学生を引率しての来館が多かった。

▽6 月 13 日＝専修大学ジャーナリズム学科 教員と学生 13 人。

▽6 月 23 日＝立教大学図書館司書課程 教員と学生 9 人。

▽6 月 26 日＝図書館フォーラム 図書館館長など 12 人。

▽7 月 13 日＝大正大学心理社会学部 教員と学生 17 人。



校外学習で索引検索する学生

- ▽7月17日＝東洋美術学校 教員2人と学生27人。
▽8月7日＝昭和女子大学現代教養学科 教員2人と学生8人。
▽10月16日＝明星大学人文学部人間社会学科 教員と学生14人。

12. 迷宮書庫 探検ツアー

毎月第2土曜日（8月は夏休みで第3週）に実施した。参加者は計12回で、45人だった。前年が12回で計81人。参加者が減少傾向となっており、今年度からは、パワーポイントなども駆使して、画像で記事索引作成や記事コピーの風景、Webの利用方法を見せるなど、多彩な内容も取り入れ、より参加者が楽しめるものにしていく。

13. 職員へ夏と冬に一時金支給

6月に、夏季一時金を幹部職員に15万円、一般職員に10万円を支給した。12月には、冬季一時金を幹部職員20万円、一般職員15万円を支給。新年度も同額の支給を予定している。